



平成31年度 第2号
瓜生小学校校長室だより
H31.4.23 (発行者 千田)

早いもので、新年度がスタートして2週間余りが過ぎました。1年生は新しい学校に、2～6年は新しい学年に慣れてきた様子が伺えます。そして、子どもたちは、緊張感の中にも、楽しく充実した学校生活を送ってくれているのではないかと考えています。私が一番すばらしいと感じるのは、欠席が少ないということです。始業式以降、全校児童105人、欠席もほとんどなく元気に学校生活を送っています。福井県において不登校数が増加している中、学校を休まないということはすばらしいことだし、立派な財産だと思います。ただ、今週末より、過去最長の大型連休を迎えます。先日の給食中、子どもから「五月病」て何ですかという質問を受けました。五月病とは、4月の緊張感が続く中、ちょうど慣れた頃に大型連休があり、そこで緊張の糸が切れた結果、連休明けを憂鬱に感じてしまう症状です。

不登校の発生時期は、夏休み明けの9月が一番多いのですか、本年度は10連休明けの5月は要注意です。どうか連休中も、早寝・早起き、毎日少しの時間でも机に向かうなど、規則正しい生活が送れますようご協力をお願いします。

5月7日に全員が元気に登校してくれることを願っています。

大きな声ですばらしい挨拶をしてください。児童会の力で笑顔あふれるすばらしい学校になることを期待しています。



児童会役員挨拶

生きる力を育てる

先週はPTA総会・教育懇談会へのご参加、誠にありがとうございます。平日開催にも関わらず、8割の保護者のご参加がありました。お子様への教育や本校の新年度の方針に、強く関心をもっていただけの証と改めて意を強くしました。

さて、今の小学生が社会に出て活躍する頃、世の中はどうなっていると思いますか？これからの社会に求められる学力はどのようなもののでしょうか？これからは、グローバル化・情報化の急速な進展により、より一層複雑で激しく変化する社会になることが予想されます。急速にグローバル化・情報化が進展する社会では、さまざまな情報を受け止め、主体的に判断しながら、課題を解決していく力がますます重要となります。未知の課題が日本でも世界でも発生し、それらに対する新たな解決の能力が求められます。文化や考え方の多様性を理解し、多様な人々と協働することや、自ら課題を発見し解決していくことなどが求められます。先週実施された全国学力調査の問題を見ても、従来のような「覚えているだけでできる問題」の出題は少なく、持っている知識を活用する問題、自分で文章や資料などを読み取り課題を発見する力、仲間と共に話し合い課題を解決していく力など「覚えているだけではできない問題」が数多く出題されています。2020年の大学入試制度改革により、より一層このような力が重要視されることと思います。このような社会的変化の流れを受け、本校のスクールプラン（裏面参照）も「自立と共生」の理念をもとに策定しました。実際のところ、急速な社会変化に日本の学校現場が追いついていないのが現状です。本校としても、時代の変化に対応した「主体的で対話的な深い学び」の実現に向けて研鑽を積んでまいります。ご理解・ご協力をよろしく願いいたします。

5月 行事予定

- 12日(日) PTA奉仕作業 8:30
- 15日(水) 歯科検診
- 23日(木) 体育大会予行練習
- 25日(土) 体育大会
- 26日(日) 体育大会予備日
- 27日(月) 振替
- 30日(木) 田植え(5年)
- 31日(金) プール掃除(4～6年)